

日本ボーイスカウト北海道連盟だより No. 140



斧の響き



8月1日～9日に静岡県朝霧高原で開催された「第15回日本ジャンボリー(15NJ)」は、北海道からは本部奉仕要員も含め220名余の参加がありました。

宇宙を旅してきた記念ワッペンが野口宇宙飛行士から、シンボルマークをデザインした恵庭1団の柴崎君に手渡され、サプライズ来場したサッカーの岡田監督と札幌地区のスカウトたちがお会いできる機会にも恵まれました。

15NJから帰り、北海道から参加した派遣隊は参加スカウトや指導者の感想文・記録集を刊行しており、スカウト・指導者たちの貴重で感動的な記録や感想が残されています。

「隊長のひとりごと」

終わってしまうと8月1日に保護者の皆さんが手塩に掛けた『大切な宝物』を預かり一路朝霧を目指した事が夢のように思えてくる。

最初は大人しかった宝物達も現地で除々に順応し始め、その未知なる生態を明らかにしていき、ついにはSとKのtwo topに続き、全員が毎日かわるがわる何かをやらかし始めた。

いつの間にか大切な宝物だったはずのスカウト達は男女の区別なくリーダー達に『このオ～たからもの』と呼ばれ、その日の行動は毎晩のリーダー反省会で逐一報告され、我々に抱腹絶倒の日々を与えてくれた。

だが、そんな『たからもの』も日が経つ内に何かが違ってきていた。リーダーシップを発揮する者、陰で黙々と作業する者、積極的に作業に加わり始めた者、年下のスカウトの面倒を見ている者、進んでムードメーカーになる者。そして、来た時からのハイテンションを維持し続けたVSの「大たからもの」等々…とにかく全員が、他の人々のために何かをしなきゃと言う気持ちを持ちはじめた結果の現れだと思う。

千歳空港で解隊後に改めて隊員達を見ると8泊9日という長期キャンプを成し遂げ自信に満ちあふれ、たくましい顔つきになった本当の宝物達の姿があった。

15NJをこのスカウト達と過ごせた事にリーダー全員で感謝します。See you again!

【某派遣隊記念文集から転載しました】

北海道・東北ブロック交流キャンプ

スカウトたちの自発活動で「北海道・東北ブロック交流キャンプ」が9月18日（土）～20日（月・祝）の2泊3日に真狩野営場で、東北5名・道内11名（内、運営スタッフ4名）計16名のスカウトが参加して行われました。

スカウトが書いた参加記録の一端をご紹介します。

【9月17日（金）前日】

翌日に控えた「北海道東北ブロック交流キャンプ」。

去年に行われた第11回北海道東北ブロックフォーラムでのアピールを受けて実現したのがこのキャンプ。フォーラム同様、もちろんスカウトの自主運営。

と言うわけで、運営スタッフは前日の夜から野営場入り。運営の最後の確認を行い、その後支援スタッフを交えて備品整備を行った。この時から備品のリストを作っていなかったり、鍋ぶたで額を切る負傷者が出たりと前途多難だった。作業は大幅な時間を使ってしまい就寝できたのは日付が変わってからだいぶ経ってからだった。

【9月18日（土）初日】

真狩の朝は早い。5時の朝の日差しは明るかった。

朝食を終えサイト作りへ。今回、スカウト用宿泊用テントはA型テントだったが、こいつがくせ者。ドーム型に慣れ親しんでいて四苦八苦、やっとの事でサイトが完成。

準備作業中に洞爺湖経由のスカウトが予定よりも早く到着し、大急ぎで受付と昼食配給を行う。その後開会式、オリエンテーションを駐車場で言い、サイトへ戻って作業着に着替え野営場見学、食堂の長いす作りを行った。

夕飯はカレーライスと唐揚げ。どうやら「スープカレーの素」からでも立派なカレーライスが出来らしい。新発見！

【9月19日（日）2日目】

どたばたなキャンプ初日を乗り切り、一夜を明かした。

朝食はうまく分担を決め潤滑に行えることが出来た。

このキャンプの目玉の一つでもある選択プログラムへ。参加者はダッキー・ラフティングの野営場外組とエコへの挑戦、野営場内組に分かれてプログラム開始。

エコへの挑戦では蜂の巣駆除、エコ料理、

野営場開拓、ツリーハウス作り手伝い、野営場の看板作りなど各自自分のやりたいことを行った。

「マグロのお頭はいかがかしら？」どうしてもこれだけは言いたかった。夕食は海鮮バーベキュー。中身は上記の通りマグロー尾の頭、ウニ・いくら丼、焼きつぶ、タラバガニ、鮭の切り身、ヒラメのポイル焼き、甘エビ、ジンギスカン。とてもキャンプの夕食とは思えないラインナップには脱帽。支援スタッフの本気を感じた。

夕食を堪能した後はこのキャンプを振り返るキャンプフォーラム。ただ、寒すぎたのでみんなで夕食の時におこした炭に当たりながらフォーラムを行った。

【9月20日（月・祝）3日目・最終日】

いよいよキャンプも最終日。

遅くまで続いたフォーラムの疲れは見えなかった。朝礼の行い後個人装備をまとめ洞爺湖畔へ。

パンフレットをもとに洞爺湖を散策。「ジオパーク探究」のテーマであったが、足湯や火山化学館、スワンボートなどそれぞれが思うがままに洞爺湖畔探索を楽しんだ。

洞爺湖畔探索を満喫したあとは、洞爺駅まで移動し、北海道ラーメンを食べた。食後は時間に余裕があったので、徒歩数分の太平洋へ。全身海水につかっているのもいた（駅のトイレで着替えさせたが）。

駅で参加スカウトの見送りを終えた運営スタッフは野営場へ戻り撤収作業。撤収作業が終わったのは午後4時半。札幌へ帰れたのは午後9時。峠で交通事故があり倍の時間がかかってしまった。最後までなんとただでは終わらないキャンプだった。



平成22年度 北海道スカウトフォーラム

「Creating a Better World ～よりよい世界を創ろう～」

9月4日(土)～5日(日)
1泊2日の日程で「北海道
スカウトフォーラム」が北
海道ボーイスカウト会館で
行われました。

5地区から18名のベン
チャースカウトが参加して
昨年引き続き自主企画・
自主運営で行われ、このノ
ウハウが継承されてきてい

ます。

運営委員のメンバーがま
とめた「グループ討議の記
録」抜粋を紹介し、彼
らの箇条書き記録の行間か
らベンチャースカウトの想
い・考えをくみ取ることが
できます。

これから、スカウトたち
の実践活動に期待し、地区

や原隊において温かく見守
って行きたいものです。

特にフォーラムに参加し
ていない地区への対応で、
フォーラムのことを報告し、
実行して貰うことが確認さ
れました。(報告書本文を地
区コミッショナーに送付し
ます)

グループ1 リーダーシップ

リーダーシップについて、評価反省をした結果、「知識 技能 実力」がない。
後輩に技能を聞かれても、先輩スカウトが答えられなかったら後輩は、ついてきてくれない。⇒
よいリーダーになれない！！

◎技能を向上させよう:例えば隊長や副長なしでキャンプをして、全て自分たちでやり、一からやり直し、技能を高める。後輩の模範になれる。

グループ2 災害時の地域奉仕活動

- ライフラインが断られた状態を想像して資材を制限したキャンプを実施。
- 救急法を習得して技術の確認が必要！！
- 一般の人にも野外技能を身に付けて貰う訓練キャンプなどにも参加してもらう
- ハザードマップを活用して、避難場所への時間、ルートを実際に歩いて確認する
- 経験者から教訓を！！
- 情報収集:インターネットでどのような奉仕が行なわれているのか調べる。

グループ3 異文化交流

- ◇ 異文化交流テーマ
 - * 「言葉や文化の違いを深くは考えず、まずは純粋に交流できる機会をもちたい」
 - * 「積極的にコミュニケーションを図ろう！」
- ◇ 自分たちの現状
 - * 英語(外国語)をうまくしゃべれないので不意に対処が出来ない。
 - * 交流する機会が少ない:個人での交流が困難→スカウト活動や学校を通して活動を
- ◇ 理想的対策
 - * 札幌地区B-P祭(ウェルカム・ザ・ワールド:数カ国の人それぞれの国の遊びや言葉を各ブースで紹介)
 - * 石狩地区韓国との交流(両国の伝統舞踊を披露)
 - * ジャンボリーの交流会/北海道東北ブロックキャンプなど、他県との交流も立派な異文化交流である。
- ◇ これらのことをふまえて自分たちに出来ることは？
 - * VSが中心となって情報を入手、地区で企画を起こす、交流機会を増やす対策をする。
 - * 一方的な交流ではいけない。互いが楽しめる交流を行う
 - * 事前に自分の国・地域の知識を蓄えておき、相手との差違を感じ取り、より理解を深める。
- ◇ 以上をふまえ、
 - 個人での交流を自主的に探索するのも一手だが難しいのでまずはスカウト活動を通しての行事を中心に。その貴重な機会を大切に、積極性を持つ。
 - そのため、まずは交流の「機会増加」「相互理解」「異文化を学び広範囲な視野を持つ」を目標とし、よりよいスカウト活動を追求する。

「平成23年度カブラリー・ビーバーデー 基本実施要領」決まる

11月13日（土）第52回全道スカウティング研究協議会の時に開催されました臨時理事会で「平成23年度カブラリー・ビーバーデー」の基本実施要領が承認されましたので、概要をお知らせします。

参加申込等の詳細は別途各団委員長、各カブ・ビーバー隊長さんにご案内します。

【運営の特色と開催概要】

組織状況等を踏まえて、従来の固定概念にとらわれない柔軟な発想で効率的に行い今後の各種大会のモデルとします。

そのため、実行的で機能的な実施体制の元、施設機能・外部資源(人材)の活用を図り、指導者・運営者の意識改革を求め、子どもたちにどうプラスになるかを判断の基本とします。

ボーイに上進すると全道大会からジャンボリーと続く「ゆめ」をカブやビーバーに与える大会内容とし、プログラムはコミッ

ショナーやトレーナーおよび推薦・公募メンバーによる「実行委員会」が主に企画・準備を担当し、地区コミッショナーと連携して参加隊リーダーが当日対応でも、出来る方法で行います。

低年齢のビーバースカウトは、長距離移動で全道大会を行うには無理があり、ビーバー部門単独の全道大会は行わず、カブの大会にビーバーデーを設けます。

同様にボーイ部門の道大会（キャンポリー）にカブデーを設けます。

1 目的

北海道のカブスカウトが一同に集い交流を深めるとともに、カブラリーでのプログラムを通じて、各隊活動の充実に役立てます。

また、カブラリーの運営は、従来の固定概念にとらわれない柔軟な発想で効率的に行い今後の各種大会のモデルとします。

2 事業名：2011 カブラリー in たきの

3 テーマ：たきのの森をまもらナイト！！

4 期 日：2011年（平成23年）9月17日（土）～19日（月） 2泊3日

5 会 場（宿泊所）

札幌市青少年山の家（宿泊所） 札幌市南区滝野247

国営滝野すずらん丘陵公園 札幌市南区滝野247

6 参加者

(1) 平成23年度登録済のカブスカウト。

(2) 平成23年にCSに上進予定・上進したBVS・初級・見習のBS

(3) 隊長判断によるCS年代の体験入隊中の児童。

(4) 平成23年度登録済の指導者・デンコーチおよび参加隊長判断による保護者。

7 参加数見込み

参加スカウト 300名（396名 10月8日現在）

指導者（含む本部要員） 100名（171名 10月8日現在）

計 400名

8 参加費および納入・大会経費

(1) 参加費：スカウト・指導者 1名 12,000円。

(2) 参加費の納入：予備申込（平成23年4月30日締切り） 1名 2,000円

確定申込（平成23年6月30日締切り） 1名 10,000円

(3) カブラリー開催に要する経費は原則として、参加費のみを原資とします。

9 参加の申込

(1) 予備申込期日：平成23年4月30日（土）*先着順受付

(2) 確定申込期日：平成23年6月30日（木）

(3) 申込方法・申込先

平成23年1月以降各団・隊にご案内する予定です。

「2011 ビーバーデー in たきの」

- 1 目 標 : 自然への関心を深め科学する心を養います。
ビーバー隊に所属する喜びを味わいます
- 2 ねらい : 自然の中のポイントを、みんなで協力し制覇します。
カブラリーを身近に感じます。
- 3 日 時 : 平成23年9月18日(日) 11:00~14:00
- 4 会 場 : 国営滝野すずらん丘陵公園
滝野の森、東ゾーン、札幌市青少年山の家、森の交流館、森見の塔など
- 5 参加費 : スカウト、指導者とも1,000円
- 6 日 程 :
 - 10:00 受付
 - 11:00 開会セレモニー (風のはらっぱ)
 - 11:30 プログラム (コースを回る)
 - 13:40 閉会セレモニー (風のはらっぱ)
 - 14:00 解散
- 7 概要
 - (1) 約1.5kmのコースをいくつかのグループに分けて回ります。
 - (2) 昼食は、開会時に配給し隊毎に自由な場所でとります。
 - (3) 参加記念品を作り、昼食の袋に入れて待たせます。
 - (4) コース回りのために、簡略化して地図を用意します。
 - (5) 途中、ツリーハウスや3.5mのローラー・スライダーで遊びます。
- 8 前泊
事前に参加意向予備調査を行い、前泊の希望(意向)を把握して前泊施設の確保を検討します。
- 9 参加申込み
カブラリーと同様とします。ただし、予納金の扱いは行いません。

カブラリー・ビーバーデー

シンボルマーク、テーマ曲、キャッチコピーを公募

募集要項の詳しいことは、23年1月にお知らせする予定です。
カブスカウトも応募できるような募集要項を検討中です。



ベテランを講師に迎えて「スカウトソング研修会」開催

前日までの雨も止み、澄み切った青空が広がった10月11日、平時は太鼓の響きと祝詞の声が窓外に伝わる北海道神宮頓宮では、時ならず若々しい？歌声が響いていました。

数年振りに「スカウトソング研修会」が、元日本連盟トレーナーでソング指導のベテラン、塩谷 眞守さん、稲村 幸宏さんを講師に迎えて開催されました。

全道各地から20名が参加して、「楽しい集いの歌」「セレモニーの歌」「イエールとアクションソング」「ビーバー・カブ・ボーイスカウトと歌」などのセッションで歌唱法はもとより指揮法、活動におけるソングの活用、スカウトの変声期への対応など、実技と相まって充実した楽しい研修会でした。



スカウトたちにより豊かなプログラムを提供するため、指導者の資質向上をはかる、このような研修会は来年度も継続します。

また、地区で独自の研修会を企画検討される際は、研修内容の相談・講師派遣に応じますので北海道連盟事務局へご連絡ご相談ください。

23年度の北海道ボーイスカウト運動 推進の指針を募集

9月11日に開かれた第5回理事会および10月2日・3日に行われた第2回地区コミッショナー研究集会で「平成23年度に道内のボーイスカウトが一丸となって『共通の目的（指針）をもった活動』を行う」ことが確認されました。

これは、道内のボーイスカウト関係者が具体的な共通の目的・指標（話題）のもと活動を行い、相互連携・切磋琢磨してボーイスカウトの活動振興を図り、地域社会にアピールするために行うものです。

例えば、

- ① 平成9年度に日本連盟創立75周年で「Looking Wider～視野をより広く～」のテーマで行った【自転車全国一周友情リレー】
- ② 平成19年度に子どもゆめ基金助成事業で全道一斉に行った【キャンドル・アワード。キッズ・コミュニティ。北の開拓者キャンプ】
- ③ NPO・NGOと連携して【途上国に古い靴や学用品を贈る運動】
【リングプルやペットボトルキャップを集めて途上国支援事業】
- ④ 環境・自然保護などのテーマで全道のスカウトが一斉に取り組み、その活動の様子を社会的にアピールする【スカウトの日・北海道版】
- ⑤ 何らかのテーマのもと、【道内の全団をつなぐメッセージリレー】
- ⑥ ボーイスカウト活動の特色である、“パトロールシステム”を実践するため、隊連携による2班（BS）・2組（CS）活動の実施

などなど、様々なことが考えられます。

ご自由な発想で、北海道連盟事務局へご意見・アイデア等をお寄せください。

具体的な実施方策を検討するため、22年12月末日迄に北海道連盟事務局へアイデア・ヒントなど簡条書きでもかまいませんので気軽にお寄せください。

22年度登録数2,200名台をキープ

11月17日現在の加盟登録人数状況は次のとおりです。
昨年同時期より約100名減少しています。

団 数	53個団
隊 数	193個隊
スカウト	1,269名
指導者・団委員	942名
合 計	2,211名
前年比	△164名

弥 栄

平成22年4月1日～平成22年11月30日

技能章 取得スカウト		宗教章 取得スカウト	
野 営 章	6名	キリスト教章	4名
炊 事 章	4名	神 道 章	1名
伝統芸能章	4名		
洗 濯 章	2名	信仰奨励章取得スカウト	3名
自 転 車 章	4名		

進級章 取得スカウト			
1級スカウト章	17名	菊 章	10名
富士スカウト章	3名（内2名、日本連盟に申請中）		

＝事務局便り＝

- ◎ 団運営研修会：平成23年2月25日（金）～27日（日）
北海道ボーイスカウト会館で開催します。
案内・要項は12月下旬に発送予定です。
- ◎ 平成23年度登録用データ
12月11日（土）に開催されます「地区事務長会同」でお渡しします。
- ◎ 日本連盟維持会費の納入を
維持会員の名簿は地区委員長にお渡ししています。12月末までに目標を達成したいと思いますので納入をお願いします。
- ◎ 平成23年度功労者表彰申請：23年1月15日締め切り
関係書類は地区協議会長・地区コミッショナー、写しを地区委員長に送付しております。
- ◎ 道連事務局で業務改革進行中
道連事務局では、ボーイスカウト資料コーナー・サロンの開設を始め、財源の効率的運用やスカウティング活動充実のため需品・会計処理の業務改革が進行中です。

≪編集後記≫

事務局体制や常任理事の担当変更などに伴い「斧の響き」の発行が大変遅れました事をお詫び申し上げます。1月号は全道研と賀詞交換特集を予定しています。

斧の響き 140号（平成22年12月1日発行）

発行・印刷 日本ボーイスカウト北海道連盟

〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3 北海道ボーイスカウト会館内

Tel 011 - 823 - 7121 Fax 011 - 814 - 9377

E-Mail douren@agate.plala.or.jp 北海道連盟公式HP <http://www.bs-douren.org/>

発行責任者 北海道連盟 理事長 長岡 正彦